

第4回 ユニバーサルなスポーツ施設検討会 次 第

日時：令和6年10月11日(金) 14:00～16:00

場所：兵庫県2号館5階庁議室

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 議 事
 - (1) 第3回検討会の結果について
 - (2) 県内スポーツ施設への支援方策について
- 5 その他
- 6 閉会

(配付資料一覧)

- | | |
|-------|------------------------------|
| 資料1 | 第3回検討会での主なやりとり |
| 資料2 | 拠点施設の整理（ハード対応）、ソフト面の支援方策 |
| 資料3 | 第1回検討会での議論、第2回検討会での主なやりとり |
| 参考資料1 | ユニバーサルなスポーツ施設検討会設置要綱、検討会委員名簿 |

第4回 ユニバーサルなスポーツ施設検討会

出席者名簿

日時：令和6年10月11日(金) 14:00～16:00

場所：兵庫県2号館5階庁議室

<委員>

区分	氏名	役職等	備考
有識者	青山 将己	流通科学大学人間社会学部講師	
	柳 尚吾	関西学院大学建築学部准教授	
障害者スポーツ振興団体	増田 和茂	県障害者スポーツ協会理事長	
障害者団体	木村 佳史	県身体障害者福祉協会理事長	欠席
	柴崎 博彦	県知的障害者施設協会スポーツ委員長	
	新銀 輝子	県精神福祉家族会連合会会長	欠席
パラアスリート	大矢 勇氣	車いす陸上選手	欠席
	笠本 明里	パラ水泳選手	
	久保 秀男	車いすバスケットボール選手	
施設関係者	奥山 隆彦	株式会社ウェルネスサプライ しあわせの村温泉健康センター総支配人	

※区分ごとの五十音順。敬称略

<事務局>

役職	氏名
福祉部長	おかだ ひでき 岡田 英樹
同 次長	のだ せいいち 野田 誠一
同 ユニバーサル推進課長	あいうら てるゆき 相浦 輝之
同 副課長	おきもと あけみ 沖本 明美
同 主幹(事業担当)	にしだ いきむ 西田 勇
同 主幹(パラスポーツ推進・拠点整備担当)	まつだ じゅんご 松田 淳吾
同 主任	やまねま なみ 山根麻奈美

第3回検討会(現地視察・意見交換会)

主なやりとり

○県立障害者スポーツ交流館

<施設職員>

- ・一般、トップアスリート両方の利用があるが、日曜日に一般の人が利用したいとなってもアスリートが練習等で利用するため、一般の人が使えない場合もある
- ・実際に利用者からは休みの日に使えないという意見もあり、スペースが足りていないのが現状。利用者からはいろいろな意見が寄せられ、足りないところを人材、ソフト面でカバーしようとしているが、職員の欠員や設備の老朽化などの問題があり、十分にまかない切れていないのが現状である

<検討会委員>

- ・トイレや更衣室などスペースが広く、障害者の方に非常に使い勝手のよい施設である
- ・施設を整備する際には、当事者目線になること、利用する方の意見を聞くことが大事
- ・指導員には、ぜひ利用者と一緒にプレーして欲しい。利用者も多く予約が取りにくい状況にあるので凍結中の新体育館をぜひ作ってもらいたい。

○事務局との意見交換（来年度の支援方策の方向性について）

<検討会委員>

- ・場所としての拠点をどうとらえるか。一施設で全競技を網羅するのは無理。競技毎の拠点を形成し、分散させていくことも考えられる
- ・整備には予算がかかる。3D化するなど施設改修に見える化してモデル的に広めることも考えられる
- ・職員への研修は座学だけではなく、例えば障害者スポーツ交流館でのOJTなども交えた方がよい
- ・拠点施設の考え方には、防災的な視点も必要では、何か災害があった時を最初から想定して大きめにつくるのが大事

<事務局>

- ・拠点施設の考え方については、整理して次回改めて提示したい。これまでのご意見を踏まえて、来年度の予算要求につなげていく

拠点施設の整理について（ハード対応）

区分	県の支援内容	支援方針
中核拠点施設(全県)	1:ソフト面の充実 2:整備	1:ソフト面の充実 兵庫県立障害者スポーツ交流館(神戸市西区)の機能強化(大会実施(全国・全県レベルのスポーツ大会)人材育成(審判・指導者講習会,アスリートとの練習会・記録会・競技会)普及活動(パラスポーツ教室)の充実)(全県レベルの拠点) 2:全県的な新施設の整備 上記交流館のアリーナ稼働率(99.5%:R5)を踏まえ、世界パラ陸上等のレガシー継承、中核拠点機能の強化のために新たな施設整備も視野に入れた検討の実施
案1 地域ごとの圏域拠点	拠点への位置づけ*	・各圏域に1箇所、中核拠点を補完し、体育館・グラウンド・プールいずれかを有するアスリート育成等の中心拠点となる施設をユニバーサルな圏域拠点に位置づける
案2 競技ごとの拠点		・各競技毎の拠点となる施設を、アスリートとの練習会、記録会、競技会等の実施について調整したうえでユニバーサルな拠点に位置づける (例：県立円山川公苑(豊岡市)のカヌー競技、県立尼崎スポーツの森(尼崎市)のプール競技、県立三木総合防災公園陸上競技場の陸上競技(三木市)など)
市町拠点	UD化補助	・障害の有無を問わず近隣住民が気軽にスポーツに取り組める、パラスポーツの普及を重視した市町拠点へのUD化支援 1:駐車場、スロープ、トイレ、エレベーター、更衣室、館内の案内表示の整備 2:県立障害者スポーツ交流館等の整備モデル事例集の提示（R7予算要求） 3:1の箇所を中心にUD化への補助を検討

* (R7予算要求)の表記以外の取組は、引き続きR7ユニバーサルなスポーツ施設検討会で検討

* 位置づけ対象の拠点施設には、実施競技、施設特性等について県や県障害者スポーツ協会が積極的にHP等でPR、のじぎくスポーツ大会の実施等で支援

ソフト面の支援方策について

○施設職員向け障害者対応研修の実施（R7予算要求）

- ・ 障害種別や行動特性、施設利用時の安全確保等を学ぶ**研修会の実施**
- ・ 研修会では座学のほか、障害者スポーツ交流館等でのOJTを取り入れる
- ・ 研修会の中で、県障害者スポーツ協会からスポーツ施設職員とパラアスリートが使いやすい施設となるよう協議する場の設定、障害者優先利用日や障害者の優先利用時間帯の設定、減免*等の対応実施への**働きかけ、協力を依頼**

○減免対応の検討

- ・ 減免対応には、市町・民間施設の十分な理解を求める必要があるため、拡充に向けて例えば10月の体育の日を中心に1週間程度の無料開放週間を実施することや、本格実施に向けた各施設の最適な減免割合等について、R7のユニバーサルなスポーツ施設検討会で検討

今後のスケジュール

令和6年10月：令和7年度予算要求（要求内容まとめ）

- ・ ユニバーサルなスポーツ施設検討会の実施
(検討内容:中核拠点施設に必要な施設機能、拠点への位置づけ、モデル事例を踏まえた市町拠点へのUD化補助制度、減免対応の方向性 等)
- ・ 県立障害者スポーツ交流館等整備モデル事例の提示
- ・ 施設職員向け障害者対応研修の実施

令和7年3月：第5回検討会

- ・ 次年度の施策説明

第1回ユニバーサルなスポーツ施設検討会

第1回検討会での議論

- 大前提としてハード面におけるUD化は必要となるが、UD化対応はその範囲が際限無く広がる可能性があることから、駐車場、トイレなど、その範囲を明確にすることが必要
- 民間施設も含めて最新の施設を視察すべき。検討会では、先進的なパラスポーツ施設のモデルを提示すべき。
- 障害の種別・程度は一人一人異なることから、ソフト面における職員への研修には限界があるものの、異なるからこそ、ハード対応ではさらに限界があるため、施設職員の対応力を上げる必要がある
- 施設職員とパラアスリートが話し合ったり相談できたりする場の設定、両者をどう結びつけていくのか考えることが必要
- パラアスリートが利用できるスポーツ施設は限られている。そうした中、玉津にある障害者スポーツ交流館はパラスポーツのメッカであり、パラスポーツの普及、アスリートの育成両面で重要な役割を果たしている。

第2回検討会(現地視察・意見交換会)①

主なやりとり

①神戸市立磯上体育館

<施設職員>

- ・床材(タナフレックス)、LED照明など最新の設備を有するほか、更衣室・トイレの配置などUDに配慮
- ・障害者の方の利用時に更衣室が混雑している場合などは、介助者含め広い授乳室の利用を勧めている
- ・稼働率は98%で混んでいる。障害者の利用は少なく、近隣の福祉センターに行かれているのでは

<検討会委員>

- ・最新の施設で、UD化された更衣室・トイレ設備などこういった配慮は非常に大事、どんどん広がってほしいが、デザイン性が優先されたのか分かりにくい案内表示もあった
- ・細かい部分の配慮(低い位置のボタンのある自販機、音声ガイド)があればもっとよい施設になるのではないか

②神戸市立市民福祉スポーツセンター

<施設職員>

- ・障害者対応のソフト面には力をいれており、職員には必ず初級の指導員資格を取得させている
- ・プールは土曜日を障害者専用利用日とし1日100人ぐらい利用。視覚障害の方の利用時はボードを置き一般利用者に注意喚起している

<検討会委員>

- ・施設や職員に障害者の利用に理解があり素晴らしいが、EVが車いす利用者には少し狭かった
- ・障害者向けの水泳講座は初心者向けとなっており、競技性を重視した上のクラスもあればなおよい

第2回検討会(現地視察・意見交換会)②

主なやりとり

③コナミスポーツクラブ三田

<施設職員>

- ・ UDとは真逆の施設かもしれない。障害者スポーツの指導員は配置できておらず、民間としては障害者スポーツの部分にまでは踏み込めていないのが現状
- ・ 学校の授業や明石では特別支援学級の利用もある。全盲の方の指導もしたことはある。介助者が障害者の方のサポートで利用する場合でも会員になり料金をいただくことになる
- ・ 障害者の方にはまず面談をし、施設構造を知った上で利用を決めてもらっている。相談窓口も用意

<検討会委員>

- ・ 車いす利用者が1人で利用するには厳しい。面談を通したサポートがあって何とか利用可能だと思う
- ・ 受付スタッフの対応は親切で相談しやすい体制が伺えた。パラスポーツの指導員がいればありがたい
- ・ 館内の案内表示が視覚障害者にも分かりやすい表示であった